

岩見沢市地域公共交通活性化協議会

平成27年1月26日設置



概要

岩見沢市は北海道の中西部に位置する、空知管内の中心都市であり、人口は79,352人（令和2年12月末現在）、総面積は481.02km²で、市域の西部には平野が広がり、東部には低山性の山々が連なっている。市の中央を高速自動車道が通っており、札幌市まで車で約45分、新千歳空港を有する千歳市まで約60分の圏域であり、また札幌市と旭川市を結ぶ国道12号が市内を通っている。平成18年に、隣接する北村、栗沢町と編入合併し、農村地域を多く有することとなった。

市内の公共交通機関の状況としては、地域公共交通網形成計画（平成28年6月策定）及び地域公共交通再編実施計画（平成29年6月策定）に基づき、平成29年10月に再編を行ったバス路線を根幹として、札幌市や千歳市など、他の市町村との間の広域的な移動にはJRや都市間バス、路線バスでカバーできない市内農村部などには、デマンド型乗合タクシーを導入し、これらの交通モードを接続させることで市内を面的にカバーすることとしている。

○地域公共交通の現況

- ・JR函館本線（岩見沢駅、上幌向駅、幌向駅）
- ・JR室蘭線（岩見沢駅、志文駅、栗沢駅、栗丘駅）
- ・北海道中央バス（株）（市内6路線、郊外線8路線）
- ・（有）新篠津交通（郊外線1路線）
- ・市営バス（栗沢地区：1路線）
- ・混乗スクールバス（北村地区6路線）
- ・デマンド型乗合タクシー（4地区）

○地域公共交通の課題

- ・人口構造の変化（人口減少や少子高齢化）
- ・担い手の確保（乗務員不足）
- ・新たな利用者の獲得（新たな利用方法、利用目的の提示）
- ・新たな技術と利用ニーズへの対応（MaaS、自動運転等の研究）

○事業の主な内容

- ・岩見沢地域公共交通計画（案）のとりまとめ
- ・協議会開催

○地域公共交通活性化協議会開催状況

- R2.7.28 第1回協議会開催
- R2.11.8 第2回協議会開催
- R2.12.18 第3回協議会開催（書面）
- R3.1.22 事業評価に係る協議（書面）

地域公共交通網形成計画に定める将来の公共交通像



岩見沢市地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●事業の結果概要

既存データの分析を実施し、現況の問題点や課題等の整理

- ・平成29年度岩見沢市JR室蘭線利用実態調査業務
- ・平成30年度岩見沢市バス利用実態調査及びバス車内アンケート調査
- ・平成30年度岩見沢市公共交通に関するアンケート調査 等を整理し分析

問題点・課題

今後の交通体系のあり方について議論

1 コンパクトで移動しやすいまちづくりの推進

- ・都市機能の集中する中心市街地の利便性を高める取組みを継続
- ・人口減少等の著しい郊外地域等から、都市機能の集中する中心市街地への移動手段の維持・確保

2 ニーズに即したバス交通のシームレス化

- ・シームレス化がおおむね実現している路線や地区については、取組みを継続
- ・広域的移動や新たな交通手段にも対応した、各種交通モード間のシームレス化の推進が必要
- ・ICTの活用などによる情報面でのシームレス化の推進が必要

3 利用実態に即したバス交通体系の構築

- ・利用状況等の継続的な把握と、将来の需要を見据えた持続可能な交通体系の構築が必要
- ・人口減少や都市機能の集約化など、地域社会の変化に柔軟に対応できる検討体制

4 交通弱者の増加を見据えた郊外部における接続可能な「生活の足」の確保

- ・定時定路線からドアトゥドアへの転換等、地域の実情に応じた「生活の足」の確保が必要
- ・沿線人口や利用形態を踏まえ、効率化と利便性の両立による公共交通の持続性向上が重要

5 市民ニーズに即した生活交通サービスの改善

- ・ニーズと利用実態を継続的に把握し、サービス改善に向けた交通事業者等との断続的な協議が必要
- ・利用者減や経費の増高、担い手不足など、公共交通の厳しい状況も含めた積極的な情報開示が必要

岩見沢市地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●事業の結果概要

問題点・課題

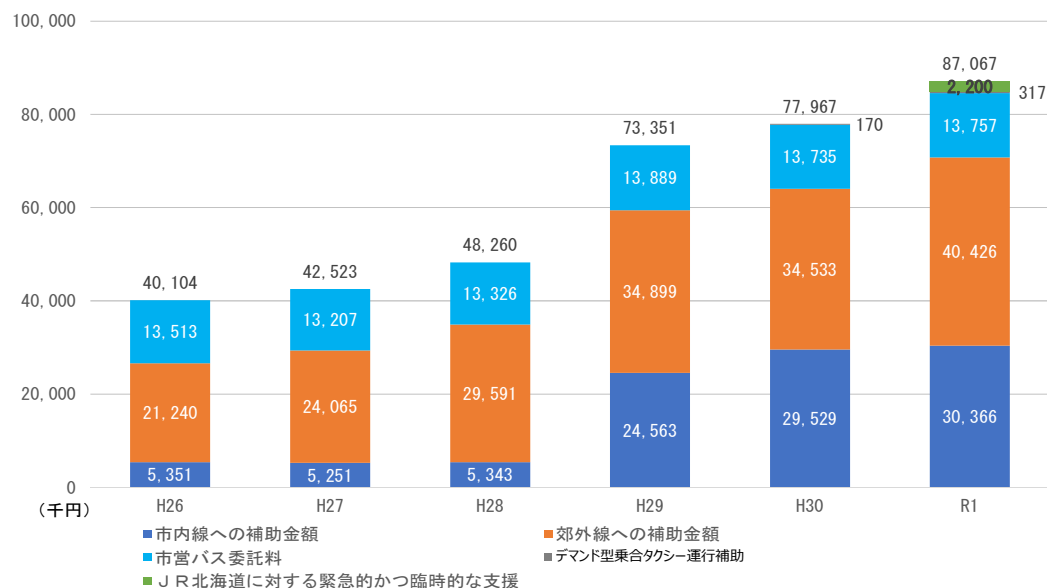
6 バス利用機会・交流機会の増加に寄与する取り組みの実施

- ・市民の公共交通に対する理解度の向上のため、各種利用促進策を継続的に展開
- ・公共交通利用の目的となる、まちの魅力づくりと情報発信が必要

7 過度な自動車依存からの脱却

- ・自動車が主な交通手段となっている市民でも、気軽に利用できるような仕組みづくりが必要
- ・「維持・存続のための公共交通利用」という概念の普及・啓発

公共交通に係る市負担額の推移



- 公共交通に係る市の負担額は、年々増加傾向で推移。
- 効率的な公共交通網への見直しを検討する必要あり。

【主な公共交通関係の動向】

H29	バス路線再編、路線バス市内線への市補助拡大
H30	デマンド型乗合タクシー導入(岩見沢北地区)
R1	デマンド型乗合タクシー拡大(岩見沢西、栗沢西地区) JR北海道への「緊急的かつ臨時的な支援」 市営バス北斗線廃止

岩見沢市地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●地域公共交通計画の計画策定に向けた方針

「岩見沢市地域公共交通計画」策定に向けたポイント

関連計画等との整合

第6期 岩見沢市総合計画(H30~R9)

第2期 岩見沢市総合戦略(R2~R6)

岩見沢市都市計画マスタープラン(H28~R7)

岩見沢市まちなか活性化計画 後期(R2~R6)

北海道交通政策総合指針(H30~R12)

計画策定にあたっての考え方

岩見沢市地域公共交通網形成計画

基本方針1	コンパクトな都市を形成する公共交通網の再構築
基本方針2	地域特性を考慮した効率的で持続可能な公共交通体系の構築
基本方針3	市民生活の質の向上に資するバスサービスの提供
基本方針4	バス交通の利用促進策の展開

岩見沢市地域公共交通計画

基本方針1	まちづくりを支える公共交通
基本方針2	暮らしを支える公共交通
基本方針3	誰もが利用しやすく効率的な公共交通
基本方針4	地域で守る公共交通

将来にわたって持続可能な交通ネットワークを構築

●事業実施の適切性

計画通り事業は適切に実施された。

●地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果

- ・事業は、計画どおり適切に実施されているものとする。
- ・今後も公共交通事業の収支率や公的資金投入額などの事業効率の改善等について検証していくことをご検討いただきたい。